

## 工藤 茂教授 略 歴



昭和7年10月 岩手県岩泉町生

昭和36年3月 國學院大学文学部文学科卒業

昭和36年4月 東京都公立学校教員

昭和38年4月 東京都立高等学校教諭

昭和51年4月 別府大学文学部国文学科助教

昭和54年12月 別府大学文学部国文学科教授

昭和57年4月 別府大学学生部長

昭和59年4月 別府大学文学部長

昭和59年8月 北京市「在中国日本語研修センター（北京語言

学院）」講師

平成元年6月 ハワイ大学・リウオード・コミュニティカレッジ

シカゴ教授

平成2年4月 別府大学アジア歴史文化研究所長

平成9年8月 別府大学大学院文学研究科教授

平成13年4月 別府大学大学院文学研究科長

著書

『口承文藝の展開』(共著)

昭和五十一年一月・桜楓社

『挽歌の系譜―井上靖の世界』(単著)

昭和五十八年四月・日驗

『日本文学史の新研究』(共著)

昭和五十九年一月・三弥井書店

『新編 太宰治研究叢書Ⅰ』(共著)

平成四年四月・近代文藝社

『新編 太宰治研究叢書Ⅱ』(共著)

平成五年四月・近代文藝社

『日本文学の伝統と創造』(共著)

平成五年六月・教育出版センター

『第一屆日本研究・台日関係・日語教育国際学術検討会

議論文集』(共著)

平成十二年七月・中国文化大学日本語文学

系日本研究所

『L. C. C. の人々』(単著)

平成十五年 三月・檸檬新社

論文・その他

〈井上靖及びその周辺の文学〉

井上靖における別離の位相―詩集『北国』をめぐって―

「日本文学論究」第三十冊

挽歌の系譜―『氷壁』をめぐって―

「國學院雜誌」第七十三卷第四号

『四角な船』への航跡―井上靖の批評性―

「國學院雜誌」第七十五卷第十一号

井上靖における万葉集の受容

「別府大学紀要」第十八号

『あすなる物語』の世界

「別府大学国語国文学」第二十号

井上靖の挽歌観

「別府大学国語国文学」第二十五号

井上靖「通夜の客」の位置

「別府大学紀要」第二十五号

井上靖「樓欄」、井上靖参考文献目録

「国文学 解釈と鑑賞」第五十二卷十二号

臺の造形―小説『四角な船』の視点―

「別府大学国語国文学」第三十号

井上靖の詩

「芸術至上主義文芸」 十五号

井上靖『四角な船』考―その選ばれた者たちをめぐって―

「別府大学国語国文学」 第三十一号

「青空」「垂」「測量船」の三好達治

「芸術至上主義文芸」 十六号

井上靖と中国仏教

「国文学 解釈と鑑賞」 第五十五卷十二号

福田正夫詩受容の変遷

「別府大学紀要」 第三十二号

『櫻の木』論

「国文学 解釈と鑑賞」 (平成八年) 別冊

小説『四角な船』の謎

「焰」 第四十四号

文庫本の変遷―井上靖の作品について―

「井上靖研究」 創刊号

詩「カマイタチ」について

「井上靖研究」 第二号

〈姨捨の系譜〉

現代文学に現れた「姨捨」

「日本文学論究」 第三十九冊

現代文学における姨捨の系譜―太宰治「姥捨」―

「別府大学国語国文学」 第二十一号

現代文学における姨捨の系譜―蟻通明神のこと(一)―

「別府大学国語国文学」 第二十二号

現代文学における姨捨の系譜―蟻通明神のこと(二)―

「別府大学国語国文学」 第二十三号

現代文学における姨捨の系譜―二つの「姨捨山」―

「別府大学国語国文学」 第二十四号

現代文学における姨捨の系譜―井上靖「姨捨」―

「別府大学国語国文学」 第二十九号

現代文学における姨捨の系譜―深沢七郎「榎山節考」―

「別府大学国語国文学」 第三十二号

現代文学における姨捨の系譜―柳田国男「親葉山」―

「別府大学国語国文学」 第三十三号

里見弴「姥捨」考

「別府大学紀要」 第三十七号

現代文学における姨捨の系譜―小池真理子「姥捨の街」―

「別府大学国語国文学」 第三十九号

姨捨説話の検討―異文化交流の観点から―

「別府大学アジア歴史文化研究所報」 第十五号

堀辰雄「姨捨」考

「別府大学紀要」第四十号

現代文学における姨捨の系譜——山本昌代「でんでら野」——

「別府大学国語国文学」第四十号

現代文学における姨捨の系譜——水上勉「じじばばの記」——

「別府大学国語国文学」第四十一号

葛藤型の姨捨説話

「別府大学大学院紀要」第三号

村田喜代子『蕨野行』考

「別府大学国語国文学」第四十四号

### 〈口承文藝と近代文学〉

森鷗外と口承文藝——「百物語」を中心に——

「別府大学紀要」第十九号

口承文藝と近代文学の境界領域の開拓を

「国文学 解釈と鑑賞」第四十四卷 四号

森鷗外「山椒太夫」考（一）

「別府大学紀要」第二十一号

森鷗外「山椒太夫」考（二）——その典拠について——

「別府大学紀要」第二十三号

「さんせう太夫」の性格

「別府大学紀要」第二十四号

近代文学と口承文藝

「口承文藝研究」第八号

「轆角庄」故事の構造

——中国雲南省大理地方の白族の炭焼長者譚——

「別府大学紀要」第二十九号

### 〈鳴訝の系譜〉

鳴訝の系譜（一）～（三十二）

「語」第十一卷第一号～第十三卷 第八号

芥川龍之介とボオ

「別府大学国語国文学」第十九号

芥川龍之介「老年」考

「國學院雑誌」第八十三卷第九号

戯作文学の中の明治

「國學院雑誌」第八十四卷第十一号

笑いの文学——芥川龍之介への一視点——

「別府大学国語国文学」第二十七号

日本近代文学の一特質

——『沈黙』と「羅生門」を中心として——

「別府大学国語国文学」第二十八号  
小説「枯野抄」を読む

「別府大学国語国文学」第三十八号

〈大分県と近代文学〉

独歩「春の鳥」考

「別府大学紀要」第二十八号

臼杵市「悲しき真珠」(野上弥生子)

「国文学 解釈と鑑賞」(平成三年) 別冊

由布岳「鄙の歌」(津村信夫)

「国文学 解釈と鑑賞」(平成五年) 別冊

別府「別府と詩歌」

「国文学 解釈と鑑賞」(平成五年) 別冊

独歩「源おち」考

「別府大学国語国文学」第三十五号

独歩における佐伯

「別府大学紀要」第三十五号

独歩「鹿狩」について

「別府大学国語国文学」第三十六号

国木田独歩の佐伯作品

「別府大学国語国文学」第三十七号

〈その他〉

教材として見た場合の『ころろ』

「国語展望」五十二号

伊藤整「青春について」

「国語展望」六十一号

中国における日本文学の受容

「別府大学アジア歴史文化研究所報」第五号

イーハトーブの世界——宮沢賢治の文学空間——

「別府大学アジア歴史文化研究所報」第十三号

陳千武の短編集『獵女犯』について

「別府大学国語国文学」第四十二号

陽子のものがたり——小説『氷点』試論——

「別府大学国語国文学」第四十三号